

はるかな尾瀬

尾瀬国立公園誕生記念特集号

2007.11 vol.3
(財)尾瀬保護財団



目次

- 03 理事長あいさつ
尾瀬保護財団の理事長に就任して
尾瀬保護財団理事長 大澤 正明
- 04~07 尾瀬国立公園誕生記念特集
尾瀬国立公園の指定について
環境省関東地方環境事務所長 柏木 順二
尾瀬国立公園
檜枝岐村長 星 光祥
片品村の大切な宝「尾瀬」
片品村長 千明 金造
尾瀬国立公園誕生おめでとうございます
魚沼市長 星野 芳昭
- 08 トピックス
尾瀬サミット2007が開催される
尾瀬国立公園記念式典が行われます
- 09 エッセイ尾瀬好日
『尾瀬に恋して50年』
写真家 今井 隆一
- 10~11 現地情報
原をわたる風だより
おこじよだより
- 12 連載コラム
『尾瀬の主治医に聞く・前編』
- 13~15 事務局からの各種情報
尾瀬ボランティア情報
寄付のお願い
友の会コーナー
イベント情報

「今月の表紙」



駒ノ大池より会津駒ヶ岳山頂(檜枝岐村提供)

尾瀬保護財団の

理事長に就任して

財団法人尾瀬保護財団

理事長 大澤 正明



尾瀬サミット2007が、8月31日に片品村の尾瀬山ノ鼻地区で開催され、同日、私はサミットに先立って開かれた財団法人尾瀬保護財団の理事会において理事長に選任されました。「尾瀬国立公園」の誕生という尾瀬関係者の長年の夢が実現した時期に、財団の理事長に就任したことは大変光栄なことであるとともに、責任の重さを感じています。

さて、尾瀬は、日本を代表する「自然の宝庫」であり、また、「自然保護の原点」と言われる地でもあります。尾瀬国立公園は、従来の日光国立公園尾瀬地域に会津駒ヶ岳と田代・帝釈山地区を編入し、面積37,200ヘクタール、福島・栃木・群馬・新潟4県にまたがる、わが国29番目の国立公園となりました。新しい国立公園の誕生は、釧路湿原国立公園以来20年ぶり、70余年に及ぶ国立公園の歴史の中で、これまで分離・独立した事例はなく、これが初めてのケースであり、地元の皆さんを始め、関係者のこれまでの努力に対して改めて敬意を表する次第です。

今回の尾瀬サミットは、尾瀬国立公園として最初のサミットであ

り、私自身、この素晴らしい自然を多くの方々を知っていただきたいと思うとともに、貴重な自然をしっかりと将来に引き継いでいこうと決意を新たにしたところです。「みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ」を基本理念とする「尾瀬ビジョン」に沿って、国民の宝として、関係者・地域が一体となり尾瀬国立公園を守り、そして適正利用を推進し、「21世紀の新しい国立公園」を目指していききたいと考えています。

平成7年に設立された当財団は、利用者に対するマナー啓発や自然解説活動、荒廃湿原の植生復元、施設の管理運営など、尾瀬の保護と適正利用を推進するためのさまざまな活動や事業に取り組んでまいりました。こうした活動等のほか、行政、土地所有者、山小屋、ボランティア及び地元の方々などの尾瀬関係者の情報交換や課題調整のための「話し合いの場」となってきたところです。しかしながら、現在でも、尾瀬認定ガイド制度の創設、植生荒廃地の復元対策をはじめ数多くの課題があります。「尾瀬国立公園」の誕生を契機として、当財団が尾瀬になくはならない存在として、関係者の期待に応えられるよう更に努力したいと考えています。

結びに、日ごろから当財団の運営に御協力いただいております関係者の皆様の変わらぬ御支援をお願い申し上げます。理事長就任のごあいさつといたします。

尾瀬国立公園の

指定について

環境省関東地方環境事務所

所長 柏木 順二



本年8月30日、旧日光国立公園尾瀬地域に加えて、会津駒ヶ岳と田代・帝釈山及びその周辺地域を合わせた新たな国立公園として、尾瀬国立公園が指定されました。国立公園の指定は、鉏路湿原国立公園以来20年振り、29番目の国立公園の誕生となります。

いわゆる「尾瀬の分離独立」については地元自治体から強い要望が出されていたこと、また、尾瀬地域の公園計画も過去若干の見直しが行われた程度で全般的な見直しが必要とされていた事情もあり、環境省として、まず尾瀬の範囲や今後の尾瀬の保護と利用のあり方はどうあるべきか検討してもらうため、地元関係者や学識経験者からなる検討会を設け、その結果昨年11月に「尾瀬ビジョン」として検討会の報告が取りまとめられました。

これを踏まえ、環境省において、尾瀬地域の公園計画の見直し、国立公園の区域の見直しの作業を行い、地元への説明、関係行政機関との調整、中央環境審議会における審議などの諸手続きを完了し、尾瀬国立公園の指定に至った次第です。

また、尾瀬国立公園については、その指定と併せて、保護と利用のための公園計画（規制計画と施設計画）が策定されています。そのうち規制計画では、尾瀬ヶ原、尾瀬沼のほか、燧ヶ岳の北面部

分、今回編入された会津駒ヶ岳、中門岳の山頂部分及び田代山の山頂部分の、核心部分は一番規制の厳しい特別保護地区とし、それらを守るべく順次取り巻くような形で、それぞれ第1種から第3種までの特別地域の規制を掛けています。一方、施設計画は、植生の復元施設、集団施設地区、車道や歩道などの整備の計画ですが、保全を中心とすべき地域であることを踏まえ、既存の施設で必要最小限のものを位置付けるといって考え、計画を作っています。管理計画については、今後その充実を図るため、関係者や学識経験者からなる検討会を設け、更に検討していくこととしています。

今後は、この新生・尾瀬国立公園の美しい自然を損なうことなく将来の世代にも継承していかなければなりません。これまで、尾瀬地域は、ごみ持ち帰り運動の推進やマイカー規制等の利用適正化や植生保護・復元事業等先進的な取組が行われ、また、尾瀬保護財団により地元自治体と一体となった管理体制がとられるなど、その保護管理の面で全国の国立公園をリードしてきました。それ故に、今回の「尾瀬国立公園」の誕生は、国立公園の管理運営の充実につながるものでなくてはならないと考えています。

環境省としては、今回の指定を契機に、行政や地元関係者だけでなく、広く一般の企業や国民の皆さんの参加や協働を促す仕組や体制を構築し、尾瀬が今後とも国立公園の保護と適正利用の推進の分野での一つのパイオニアとなるよう管理運営の充実に取り組んでいく考えです。引き続き皆さんの御協力をよろしくお願い申し上げます。

尾瀬国立公園

檜枝岐村長 星 光祥



「尾瀬」といったとき私の脳裏に最初に浮かぶイメージは、若い女性たちが色とりどりのシャツに黒の登山ズボン、黄色い横広のリュックサックに麦藁帽子のスタイルで湿原の木道を歩く姿であります。

昭和30年代後半から40年代の尾瀬の風景で、むろん現在こんな姿を見かけることも無いが、我々の年代の多くの脳裏に浮かぶ尾瀬は、このような姿の人々が沼田駅で夜行列車から降り、バスに乗り込む姿や、宿で並んで食事待つ姿、満員の相部屋といったイメージではないだろうか？そのせいかどうか、今日の尾瀬は特定の日を除くと個室がもたらえるような状況で、トイレは水洗の洋式が多いことを告げるとびつくりする人が多い。

我々は小学生の頃から尾瀬沼に良く遊びに行ったもので、朝一番のバスに乗り、七入から沼山峠を越えて尾瀬沼まで歩いて行きました。沼山峠のその頃は、針葉樹は僅かで二面笹原になっており、峠を登ってくる人も良く見えて、その先に続く大江湿原、尾瀬沼、皿伏山の美しい姿は今でも脳裏に焼きついています。当時は沼に簡易郵便局があり、そこに荷物を降ろし、弁当の米粒を餌にして大江川で春は

ワカサギ釣り、夏はボヤ（アブラハヤ）釣りを楽しみました。会津駒ヶ岳も身近な山で、小学生の頃は遠足で、中学生になるとクラスの仲間や先生と登って、山頂付近の草原で戯れていました。

そんな尾瀬がこの夏地域を拡充し、全国29番目の国立公園として指定されましたが、地元の人にとっては、尾瀬が単独の国立公園となるだけの価値のある所と認められたこと、その素晴らしい場所が自分たちの村なんだということで非常に喜んでおります。そしてその喜びの中には、永年にわたり会津駒ヶ岳登山道の整備に努め、いつまでもその姿を残したいという思いが報われた喜びと、これから尾瀬を自分たちの庭のように慈しみ、多くの人々に昔から変わらぬ尾瀬を見ていただきたいという思いがこめられています。

尾瀬には名山、名瀑、湖沼、池塘、高層湿原、高山植物と枚挙に暇が無いほどの見所があり、それらが春夏秋冬表情を変え趣を変えて迎えてくれますが、尾瀬には味わい方があります。体の芯から尾瀬を味わうには、山小屋に泊まることをお勧めします。山小屋に泊った朝夕に自然の見せる素晴らしさは筆舌に尽くしがたく、泊った人しか味わえない感動を与えてくれます。

ストレス社会の今日、日本人が遠くに置き忘れてきたものが尾瀬にはあります。目先のことに追われ、ゆとりの無い生活のなかで、時には心に栄養を与えることが必要と思います。

片品村の

大切な宝「尾瀬」

片品村長 千明 金造



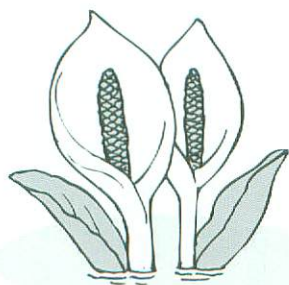
20世紀後半から、地球規模での自然破壊が止まることなく進んでいる。途上国も豊かさで引き替えに、森林をどんどん伐採し、広大な農地と砂漠化が進んでいる。加えて、地球温暖化防止に欠くことのできない温室効果ガス削減についても、先進国途上国共に、それぞれの国内事情もあり前途は多難な状況である。温暖化が影響と考えられる異常気象が世界各地で発生している。日本列島においても、この夏は経験したことのない暑さであった。

そのような中、我が国において、尾瀬が国立公園として誕生した。日本に国立公園が誕生して73年、その長い歴史の中で、初めての分離独立した国立公園の誕生である。遙かな尾瀬は、ごみ持ち帰り運動の発祥の地であり、自然環境保護の原点である。尾瀬を守ってきた人々は数え切れない。しかし、そのために最も多くの汗と労力を費やしてきた村人の苦勞を忘れてはならない。この尾瀬は、我が国の宝であると等しく、片品村の大切な宝でもある。尾瀬の郷片品村に生まれ育ち、やがてこ

の地に眠る村人の一人として、後世のためにも、尾瀬の豊かな自然をしっかりと守っていかねばならない。

片品村には、もう一つの国立公園がある。菅沼丸沼そして白根山を含む日光国立公園である。白根山の特別保護地区には、シラネアオイの群生地がある。そのシラネアオイが平成2年頃から、急激に鹿の食害により絶滅の危機を迎えた。以来、鹿除け電気柵を設け、地元の人が先頭に立ち、毎年復元作業に汗を流している。

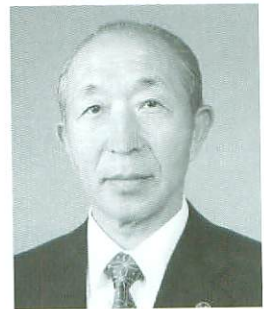
尾瀬は、大丈夫だろうか。熊や鹿が異常に繁殖していると思える。近い将来、尾瀬の貴重な高山植物が取り返しのつかないことにならないだろうか。尾瀬は特別保護地区だからと、手をこまねいて大丈夫か。尾瀬には、鹿除けの電気柵は不可能であろうが、何らかの対策は必要と考える。尾瀬国立公園の誕生を機に、尾瀬のある村として、自然の宝庫である尾瀬を守って行かなければならないと、改めて真剣に思う次第である。



尾瀬国立公園誕生

おめでとうございませす

魚沼市長 星野 芳昭



新潟県魚沼市も尾瀬を取り巻く一員として、大変嬉しく思います。尾瀬国立公園については、自然保護を二義的に考えなければならぬが、魚沼市としては地域活性化策として尾瀬をテーマに地域づくりを考えるといった視点でも取り組んでいかなければならないと心を新たにしているところです。

新潟県魚沼市からの入込みは、尾瀬入山者の5%足らずですが、尾瀬にかかる環境的負荷を考えたととき、利用が集中しないためにも新潟奥只見ルートを発信していくとともに、魚沼市民にとっても単なるお祝いではなく、自然環境を考える機会と捉えたいと感じています。

自然の中で生まれ育った私達は、どうしてもこれが当たり前と過ごしてしまいがちですが、尾瀬の自然は沢山の人達の力で守られているということを忘れず、その尾瀬のある市としてどう尾瀬に学び地域づくりを行っていくのかを考えていきたいものです。また、尾瀬沼を源流としてその流域に暮らす人達への啓蒙を広げるといった役割も担っていかねばならないと感じています。

私が初めて尾瀬を訪れてから半世紀が過ぎました。その間に尾

瀬を取り巻く環境が大きく変わったように思います。当時の交通アクセスは清水からのルートを利用しましたが、首都圏からの上越線のダイヤは尾瀬行き始発のバスに合わせてあるのに、新潟からのダイヤは夜半に沼田駅に着く夜行列車しかなく、早朝の始発バスで清水から三平峠を越え、尾瀬沼畔から燧ヶ岳に登り、温泉小屋に下つて泊まり、翌日は富士見峠を越えて戸倉からバスで帰ったことを覚えています。

まだ奥只見ダムができる以前尾瀬沼周辺の湿地は木道が不完全で、うっかり踏み外すと膝までぬかるまさに沼地でした。それが今日では木道が整備されて快適なトレッキングが楽しめるようになりました。尾瀬にとっては重要な湿原も乾燥化、富栄養化、熊や鹿の湿原への進入による植生への影響など、今夏の大江湿原に咲いたニッコウキスゲの花数を見ると尾瀬の急激な自然環境の変化が懸念されます。

尾瀬は四季折々で、表情を変え何時行っても楽しめる場所ですが、尾瀬はやっぱり夏がいい。私はワタスゲとニッコウキスゲが風にゆれる夏がもつとも尾瀬らしい尾瀬だと感じます。自然に対する考え方はいろいろですが、自然の保護・保全に併せ、共存は変化を共有することとも考えられます。これから50年たったらどんな尾瀬に変化しているのでしょうか？

今回の尾瀬国立公園誕生にあたり、尾瀬を取り巻く新潟、群馬、福島、福島の3県で今話題の道州制の枠組みについても考えて見ることはいかがでしょうか？

尾瀬サミット2007が開催される

8月30日、31日「尾瀬サミット2007」が国民宿舎「尾瀬ロジック」(群馬県片品村)を中心に開催されました。

「尾瀬国立公園を考える」をテーマに開催された今年のサミットは、前日の30日に29番目の国立公園として指定された「尾瀬国立公園」の誕生記念サミットとなり、財団関係者はもちろん多くの報道陣が参加する中、盛大に開催されました。

来賓として御出席いただいた櫻井環境省自然環境局長からは、「尾瀬国立公園の指定ということとで終わりではなく、これをスタートとして日本の国立公園のあり方を尾瀬地域をモデルにして管理・運営について再構築したい」とのお話がありました。

この後、尾瀬国立公園の誕生を記念するイベントが至仏山荘前の広場で開催され、尾瀬国立公園ロゴマークの除幕式に続き、群馬交響楽団のフルート奏者白水さんの伴奏で、地元市村の合唱団の皆さんと参加者全員による「夏の思い出」の大合唱を行いました。小雨交じりの天気でしたが、3県知事も合唱団に飛び入り参加し尾瀬

の空に美しいハーモニーが響き渡りました。

なお、尾瀬サミット、尾瀬国立公園記念イベントに先立ち、尾瀬保護財団の評議員会と理事会が開催され、評議員会において大澤群馬県知事を理事に選出し、理事会において大澤理事を理事長に選出しました。

尾瀬サミット2007

2007.8.30~31 財団法人 尾瀬保護財団



▲左側から、櫻井環境省自然環境局長、泉田新潟県知事、大澤群馬県知事、佐藤福島県知事、白川東京電力副社長

尾瀬国立公園記念式典が行われます

尾瀬国立公園記念事業実行委員会では、尾瀬国立公園の誕生を記念して、式典を開催いたします。友の会、尾瀬ボランティア、そして一般の皆様、ぜひお誘いあわせの上、御参加ください。

■平成19年12月23日(日)13時00分~17時00分

■日本消防会館ニッショーホール
(東京都港区虎ノ門・地下鉄銀座線虎ノ門駅下車徒歩5分)

■内容

○尾瀬国立公園ロゴマーク表彰式

○記念講演

中村 玲子氏(フムサルセンター事務局長)

「フムサル条約の尾瀬」

赤木 右氏(九州大学大学院理学研究院教授)

「第10回尾瀬賞受賞者」

「湿原から考える地球・人間環境」他

○記念イベント 尾瀬の地元三市村「伝統芸能

・尾瀬太鼓(片品村)

・民謡広大寺他(魚沼市)

・松枝岐歌舞伎(松枝岐村)

参加御希望の方に案内状をお送りしますので、財団ホームページからの登録または、官製ハガキ、ファックス、メールに「記念式典参加希望」と記載の上、御自分の郵便番号、住所、氏名、電話番号を記入して実行委員会事務局(財団事務局)までお送りください。

『尾瀬に恋して50年』

カメラマンという職業柄「今までに見た風景で一番感動したのは何ですか」とよく聞かれるが、迷わず「高校1年生の時、尾瀬沼のほとりでテントを張って、飯ごう炊飯していた時に見た、徐々に夕焼けになって行く姿」と答えている。あの空の色、風の匂いは50年たった今も、忘れることがない。この情景はカメラ雑誌の「コンテストで上位入選」「10代での入選は初めて」などとおだてられてカメラマンになつてしまったのだが、決心させてくれたのは、あの夕焼けである。

先日、親しくしている新聞記者に、「尾瀬の魅力は何か」と問われて、すぐに答えが見つからなかった。あごに親指と人差し指をあてて考えていたら、その記者は「いつ行つても別の貌（かお）を見せてくれるから……。私はそう思うなあ」とつぶやいた。その通りだ。確かに尾瀬は1週間たつて行つてみると、前とは違う花が咲いているし、空気も違う。納得顔の私に彼はさ

らに「じゃあ尾瀬に入る時はどんな気持ち？」と畳み掛けてきた。「入るときはともかく、山を降りてみると、また行きたくなる。行けば行くほど気持ちが募ってくる」「そりゃ、恋しているんですよ」。そうか、尾瀬に恋をしている。なるほど。自分ではただ尾瀬に通つてシャッターをきり続けているとばかり思っているが、その美しさを多くの人に知ってもらいたくて、できるだけきれいに撮ろうとしているのは、恋をしている証なのだろうか。

尾瀬の隅々までほとんど歩き、撮影した。

ハイカーが列を成す尾瀬ヶ原、水の冷たい尾瀬沼、植生回復の進むアヤマ平、展望の素晴らしい燧ヶ岳、花の見事な至仏山、ボツンと寂しそうにしている笠ヶ岳、人に会わない皿伏山……。春夏秋冬朝昼夜、刻々と変わる表情を写した。なかでも、至仏山の高天ヶ原から撮影した秋の尾瀬ヶ原が、印画紙だけでなく私の網膜に焼きついている。夕日を受けて黄金色に輝く草紅葉、山腹の赤や黄色の紅葉、常緑樹の緑、そして燧ヶ岳がまるで「私も一緒に撮つて」と言わんばかりにポーズをとっているようだった。

「マジックアワー」という映画用語を最近知った。日没から夜の帳（とばり）が降りるまでの、陰影のない時間帯を指す。日本語では「たそがれ」がこれにあたるだろう。薄暗くなつて「あそこにいるのは誰？、誰（た）そ彼」が語源というが、この「不思議な時間」の尾瀬を撮影することがこれからのテーマである。

古い手帳を調べてみたら、これまでに尾瀬の山小屋に45泊していることが分った。前述の記者はそれを「懲役1年3か月だね」と言い放つた。「懲役とはひどいよ」「だって虜（とりこ）になつてるんですよ」。

悔しくて言い返そうと言葉を探したが、見つからなかった。

(3)



▲超望遠レンズで新しい尾瀬を狙う

現地情報

原をわたる風だより

ハイカーズギャラリーへ

山の鼻ビジターセンターの名物コーナー「ハイカーズギャラリー」には毎年多くの方から俳句が寄せられています。

レクチャールームの掲示板に自由に書いて貼ってもらうため、どんな方が詠んだものか分かりませんから、一枚一枚見ながら想像を膨らませて楽しんでいきます。

今年も掲示板からあふれる程たくさん集まりました。尾瀬に来て、歩いて感じたままの気持ちを、短い五七五に込めてくださいました。全部紹介したいのですが、今回は職員が選んだら句を紹介させていただきます。

合計で二百八十余句

尾瀬の旅

きょうかい四人

しっぽんは
いやしてくれ
をね

かた

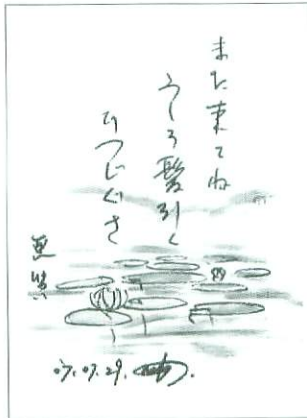
念願の
牛首の先
見て来たよ

美晴

空高く
雲流れゆく

草もけ

ゆ



夏

かた

それぞれ年齢も、季節も、尾瀬への想いも違ふと思われる方々の句、いかがですか。イラストやペンネームがその方の個性を表していますよね。これからまだまだ増えそうなので「ハイカーズギャラリー」俳句だけでなく、イラスト、写真なども募集しています。皆さんもちよつと立ち寄られて、尾瀬への想いを自分の得意な方法で表現してみませんか。

シーズンの尾瀬

尾瀬の紅葉シーズンもとうに過ぎましたが、今年は例年になく、様々なことがありました。

動植物では、まず春のミスバシヨウ。最初に咲いたものは遅霜で枯れてしまいましたが、その後はほとんど咲き、きれいなミスバシヨウが見られました。夏、ワタスゲの果穂やニッコウキスゲは尾瀬ヶ原で極めて少なく、また少雨のため、湿原や池塘が一時干上がったりました。

7月16日の新潟県中越沖地震の際は尾瀬ヶ原も大きく揺れ、池塘ではメタンガスが発生し、中田代の一部で泥炭が水底から剥離し、水面に浮き上がる現象が見られました。

ツキノワグマは6月に山ノ鼻地区、中田代(ヨシツボリ田代)、下田代(六兵衛堀)を中心に頻繁に出没していましたが、昨年とは違い7月以降は、目撃情報も極端に減りました。

保護・安全の面では、至仏山東面登山道(山ノ鼻から至仏山に登るルート)を上りで利用していただくよう、

入山口などでの啓発活動やポスター掲示を行いました。

さて今年一番の出来事と言えば、8月30日に尾瀬が「日光国立公園」から分離独立し「尾瀬国立公園」が誕生したことです。8月31日に山ノ鼻地区で行われた尾瀬サミットでも、「おめでとう尾瀬！」の記念イベントが開催されました。今後、保護と利用のあり方等、尾瀬に関する様々な話題で更に注目されるようになると思います。

夏、私達を楽しませてくれた植物の紅葉を名残惜しく思い出しながら、厳しい冬を迎える準備も終えようとしています。

尾瀬山の鼻ビジターセンター



▲実りの秋

おひじょだより

今年の尾瀬沼を振り返る

5月

例年より雪が少なかったため、今年
はビジターセンターを昨年より早く
5月1日に開館しました。イワツバメ
が飛来し、ウグイスが鳴く中、24日に
は快晴の下、福島県側の御池で尾瀬の
山開きが開催され、本格的なシーズン
が始まりました。下旬にはミズバシヨ
ウ、リュウキンカも見頃となり、特に
大江湿原では、小さい可憐なヒメイチ
ゲが目立っていました。

6月

ミズバシヨウのピークを迎えたた
め、入山者が多くなりました。また、
ミネザクラも咲き始め、周辺がぱっ
と明るくなったような気がしまし
た。ただ、上旬には霜が降り、ミズバ
シヨウや沼尻地区周辺のシヨウジョ

ウバカマが被害を受けました。中旬
になるとミズバシヨウのピークも過
ぎビジターセンター付近も静かに
なってきた。下旬には、風に吹かれる
ワタスゲの白い穂が徐々に目立ち始
め、3本カラマツ付近では、ウワミズ
ザクラが咲き始めていました。

7月

上旬は、ワタスゲの白い穂を中心
に、コバイケイソウやヒオウギアヤ
メ、カキツバタ、レンゲツツジなどが
咲き、本格的な夏のシーズンを迎え
ました。16日の新潟県中越沖地震で
は尾瀬も揺れを強く感じました。広
沢田代の木道や池塘の水も揺れ、今
までにない経験をしました。下旬は、
夏の風物詩ニッコウキスゲが咲きま
したが、例年になく花の少ない年で
した。シカの食害を受けた可能性も
否定できません。

8月

尾瀬子どもサミットが開催(7月31
日〜8月3日)され、福島県、群馬県、
新潟県の小、中学生、六十名が参加し、

尾瀬の環境について学びました。この
経験をもとにこれからも、環境を守る
ため頑張っていたきたいと思いま
す。花は、ニッコウキスゲと同じ仲間
のコバギボウシが目立ち、サワギキョ
ウ、イワシヨウブ、ミズギクなどが咲
き、秋の気配を感じました。30日には
尾瀬も念願の単独の国立公園となり
ました。会津駒ヶ岳、田代・帝釈山が新
たに編入され面積は約3万7千二百
ヘクタールということです。

9月

エゾリンドウが咲き出し、本格的
な秋のシーズンを迎えました。中旬
には、湿原も緑から薄茶色に変化し
て草紅葉にだんだん近づきました。
草紅葉の見頃は人によって違いがあ
ります。薄茶色の草紅葉が好きと言
われる方もいますが、濃い茶色の草
紅葉がいいという方もいらつしやい
ます。草紅葉の良い時期を判断する
のはなかなか難しいのです。

10月

例年ですと、気温が下がり、肌寒く

なり、木々が紅葉する時期となりま
すが、今年は遅れていました。

今シーズンは10月31日で尾瀬沼ビ
ジターセンターは閉館となりました。
毎年のことながら、半年間は大変
早く感じられます。シーズン中、いろ
いろな方にお世話になり、ありがた
うございました。スタッフ一同、厚く
御礼申し上げます。

尾瀬沼ビジターセンター



▲浅湖湿原から見た燧ヶ岳

「この雨だ、尾瀬ヶ原の竜宮尻の木道が傷むからみんなで補修にしよう。」

かつて山の鼻ビジターセンターには「むつあにい」と呼ばれ親しまれてきた、尾瀬一筋50年の星野睦治さんが勤めていました。

星野さんの主な仕事は木道や施設の管理で、厳しい尾瀬の自然環境に逆らうことなく、文字通り尾瀬と共に生きてきた方です。そんな「尾瀬の主治医」である星野さんにお話を伺いました。

尾

瀬との出会い

「私は昭和9年に片品村土出に生まれ、育ちました。父・愛三郎は憲兵をやっており、ほとんど顔を見たことはありませんでした」と夜のとほりが下りる頃、自宅の庭で炭火を起こしながら星野さんが語り始めました。

「私が尾瀬に初めて入山したのは小学校4年生で、当時見晴にいた橋弥四郎さんの小屋(現在の弥四郎小屋)に泊まらせてもらいました。その時の目的はイワナ釣りで、1日に40匹も獲れました。当時は戦時中でしたから、イワナなどのタンパク源は貴重でしたな」と思い起こす星野さん。

尾

瀬を駆け回った造林業時代新制中学を卒業した星野さん。地元で造林業に従事することになったそうです。

「当時は4つ違いの弟を高校に入学させるためにがむしゃらに働きました。造林業の仕事は、尾瀬から奥鬼怒にかけて切り出されたブナ林に、カラマツを植えるという作業でした。必死でしたが、仕事を通して山の魅力や面白さを感じたのもこの頃でした。大清水にあった飯場(作業員の宿泊場所)で寝泊まりをしながら、仕事が終わると尾瀬沼に出かける事も多かったですよ」と星野さん。



▲尾瀬ヶ原の木道補修を行う星野さん(平成11年)

「昭和37年に尾瀬林業観光(株)(現在の尾瀬林業(株))の下請けで造林事業に携わりましたが、尾瀬ヶ原に敷かれ始めていた木道の補修もこの頃から行っていました。体力

には自信があったので尾瀬には色々な物運びました。変わった物では、当時尾瀬沼の観光業として始めた手こぎボート20隻を、1隻ずつ二人で運んだ事がありまして」と星野さんは尾瀬の経験の一つ一つ思い起こしながら話してくれました。



▲木道補修の資材を運ぶ星野さん(平成9年)

尾

瀬では全ての人が平等

好きで楽しく、時間を見つけては尾瀬を歩き回っていた星野さん。そんな星野さんに転機が訪れたのは昭和45年だったという。

「群馬県が山ノ鼻に建設した、尾瀬管理保護センター(現在の尾瀬山の鼻ビジターセンター)で働いてみないかと、先輩から誘われまして。その時、私は尾瀬が好きで尾瀬を訪れる登山者に尽くしたい尾瀬に関わり続ける仕事があった

という気持ちが強くなり、この依頼を受けることにしました」と星野さん。そんな尾瀬に精通した経験が色々な人が頼ってきたという。

「昭和52、54年に行われた第二次尾瀬総合学術調査では、現地案内人として多くの学者に同行し、阪口豊先生のボーリング調査等を手伝いながら、尾瀬の貴重さを学ぶことができました。また日ごろから感じていた素朴な疑問を先生にぶつけ、しだいに尾瀬を想う気持ちと共有する仲間として、多くの貴重な経験ができました。この調査では著名な先生たちと尾瀬の事を議論したり、一緒にウドンを作ったり、夜にはお酒を酌み交わしたりと、普通では話す事もできないような先生達と平等に仕事をしました。これも尾瀬が持つ不思議な力なのだと思います」と語る姿からは、星野さんの飾らず、尾瀬と正面から向かい合う様子がうかがえました。



▲現在は自宅近くで炭焼きを営んでいる星野さん

(次号は「尾瀬の主治医に聞く・後編」で「むつあにい」の尾瀬を見る目を詳しく御紹介します。)

尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

活動に参加を御希望の方は、電話またはメールで、財団事務局まで御連絡ください。

○第12回尾瀬ボランティア総会・交流会

今年の活動の反省や意見交換を行うと共に、交流を図ります。

- ・日時／平成20年2月23日(土)14時～18時
- ・場所／青少年宇宙科学館(埼玉県さいたま市・浦和駅西口より南台行きバス駒場運動公園入口下車)

講演／これからの尾瀬国立公園について
(予定)

- ・講師／藤田道男氏(環境省尾瀬自然保護官)
- ・議事／①平成19年度活動報告

②平成20年度活動計画

尾瀬国立公園拡張区域での活動計画等

③意見交換

負担金／交流会に参加される方から負担

金二千円をいただきます。

(要事前申込)

その他／交流会ではアルコールもありませんので、参加される方は公共交通機関で御来場ください。

○ボランティアPR活動

尾瀬国立公園記念式典会場(8ページ参照)で、尾瀬ボランティア活動を紹介、PRします。尾瀬が多くボランティアによって守られていることを来場者に知っていただき、自然環境保護活動について、考える啓発の場とします。

- ・日時／平成19年12月23日(日・祝日)12時00分～17時00分

PRブースの設営がありますので、参加ボランティアは11時に集合してください。

- ・集合場所／日本消防会館ニッシーホールロビー
- ・アクセス／地下鉄銀座線虎ノ門駅下車・3番出口徒歩5分・財務省印刷局前
- ・活動内容／ボランティア活動写真の掲示及び説明。ボランティア募集パンフレットの配布等

○ボランティアアンケートへの協力

ボランティアの皆様へ回答をお願いしているボランティアアンケートを今年も実施します。来年度のボランティア活動計画を策定する上での貴重な資料としますので、別紙ボランティアアンケートに御記入の上、財団事務局まで郵送してください。

- ・締切／平成19年12月10日(月)必着

○平成20年度尾瀬ボランティア活動計画意見交換会

今年は総会に上程するボランティア活動計画を作成する前に直接ボランティアさんと意見交換を行い、共に案を作って行きたいと考えています。貴方もボランティアアンケート結果を基礎資料にしながら、事務局のボランティア係と一緒に活動計画について考えてみませんか。関心のある方は担当まで御連絡ください。

- ・日時／12月19日(水)13時30分から15時30分
- ・場所／群馬県庁17階財団事務局打合せスペース
- ・定員／先着5名

寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与したいと思っております。



■当財団の趣旨に賛同された皆様とより良いパートナーシップを築き、今後も長いお付き合いをお願いできますよう、下記の制度を通して、寄付をいただいた方への感謝の意を表すことにしました。

種類	条件	特典
特別協賛寄付	原則3年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付をいただいた場合	①財団機関誌に寄付をされた方の名称、ロゴマーク、メッセージなどを1年間掲載させていただきます。 ②財団ホームページに寄付をされた方の名称、ロゴマーク、メッセージなどを1年間掲載させていただきます。 ③尾瀬国立公園ロゴマークの使用申請書を提出でき、許可後は無償で1年間使用できます。
協賛寄付	原則3年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付をいただいた場合	①財団機関誌に寄付された方のお名前を1年間掲載させていただきます。 ②財団ホームページに寄付された方のお名前を1年間掲載させていただきます。

■寄付をいただいた皆様に所定の期間、財団機関誌「はるかな尾瀬」をお送りします。

■尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は税の優遇措置を受けることができます。

■寄付につきましては、財団事務局(群馬県庁17階・027-220-4431)に御来訪いただくか、財団に御連絡をいただいた上、右の口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531
新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

特別協賛寄付者の御紹介

※五十音順、敬称略



株式会社群馬銀行 尾瀬紀行(信託ファンド)で収受した信託報酬の一部として118万円余りを御寄付いただきました。寄付者からのメッセージ:信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの意欲の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

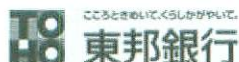


興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社 尾瀬紀行(信託ファンド)で収受した信託報酬の一部として301万円余りを御寄付いただきました。

寄付者からのメッセージ:尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。



株式会社第四銀行 尾瀬紀行(信託ファンド)で収受した信託報酬の一部として75万円余りを御寄付いただきました。寄付者からのメッセージ:尾瀬の自然環境を後世までも永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



株式会社東邦銀行 尾瀬紀行(信託ファンド)で収受した信託報酬の一部として79万円余りを御寄付いただきました。



社団法人日本損害保険代理業協会 尾瀬国立公園記念式典とPRイベントで使ってほしいということで100万円の御寄付をいただきました。

寄付者からのメッセージ:本会は、植林活動や自然保護活動に実績のある団体を支援するための基金を設置し、寄付を行っています。大変美しい尾瀬の保護活動を支援するため、財団法人尾瀬保護財団が尾瀬国立公園記念事業として行う記念式典&記念PRイベントへの協賛団体として、寄付させていただきました。

協賛寄付者の御紹介

新潟証券株式会社

尾瀬紀行(信託ファンド)で収受した信託報酬の一部として27万円余りを御寄付いただきました。

協賛寄付者(機材)の御紹介

キヤノン株式会社

ビジターセンター、財団事務局での情報収集用としてデジタルカメラ7台とハイビジョン・デジタルビデオカメラ3台、およびその他付属機材を御寄付いただきました。

寄付者の御紹介

伊勢崎ピオトープ研究会、伊勢崎南ロータリークラブ、大木 伸一、大野 領一、郡司 アヤ子、財団友の会宮城の集い(小野悠)、大全電機(株)、土浦植物友の会、日本エコウォーク環境貢献推進機構の皆様から御寄付をいただいております。ありがとうございました。

「友の会」コーナー

尾瀬国立公園記念キャンペーン実施中

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。



ー キャンペーンについて ー

- 個人会員の会費を通常2,000円を1,000円に割引(賛助会員対象外)
- 対象者:郵便自動払込か銀行口座自動振替で加入された方(郵便払込票は対象外ですのでご注意ください)
- 期間:平成19年9月1日から平成19年12月31日の間の加入
- 会費:平成19年度分の個人会員の会費を割引(平成20年度以降は通常会費となります。)
- 特典:通常と同じ内容でご提供いたします。(機関誌「はるかな尾瀬」は加入後に発行される号のみとさせていただきます。)

年会費

○個人会員 キャンペーン
1回 1,000円
(ただしH19年度会費のみ)

○賛助会員(団体・法人)
1回 10,000円

☆「めーるクラブ」を始めました

「友の会」会員を対象に登録をいただいた方に、お花の開花状況や、登山道の状況、いろいろな御案内をメールにてタイムリーにお送りする「めーるクラブ」を始めました。

メールをご希望の方は、財団ホームページの友の会ページより登録ください。(http://www.oze-fnd.or.jp)

イベント情報

講演会

○第9回尾瀬フォーラム

今回も私たちに感動を与えてくれた尾瀬。そんな尾瀬についての講演会を今年も実施します。講演の最後には来場者とパネラーとの意見交換会も行います。皆様の御来場をお待ちしています。

日 時/平成20年1月5日(土)14時15分~16時20分
場 所/高崎シティーギャラリー

群馬県高崎市高松町35番地1号

講演内容/第3の眼と尾瀬

〜初めて一眼レフに挑戦される方にも〜

講師/今井隆一氏(写真家)

主催/尾瀬保護財団、NHK前橋放送局

事前申込/不要

○自然環境に関する特別講演会

尾瀬国立公園誕生を記念して、尾瀬の自然環境や人と自然の共生などについて学び、地域の環境を共に考えてみませんか。

日 時/平成19年12月8日(土)13時30分~15時

場 所/利根沼田県民局1階101会議室

群馬県沼田市薄根町4412

(0278-22-4338)

講演内容/「尾瀬に見る人と自然の共生」

講師/岩槻邦夫氏(兵庫県立人と自然の博物館長)

主催/群馬県利根沼田県民局、沼田市教育委員会他

入 場/無料

事前申込/必要(定員百名 先着順)

申込先/放送大学群馬学習センター

(027-230-1085)

写真展

○第12回NHK「わたしの尾瀬」写真展

高崎展

日 時/平成20年1月5日(土)~

1月9日(水)10時~18時

場 所/高崎シティーギャラリー

群馬県高崎市高松町35番地1号

前橋展

日 時/平成20年1月24日(木)~

1月30日(水)8時30分~17時30分

場 所/群馬県庁1階県民ホール(南側)

群馬県大手町1丁目1番地1号

※両会場とも初日、最終日は開始終了時間が変更される予定あり

編集後記



尾瀬関係者待望の「尾瀬国立公園」が8月30日に誕生しました。尾瀬の貴重な自然を将来に引き継げるよう、21世紀の新しい国立公園を目指せるよう、微力ながらお役に立ちたいと思っています。(清)

みんなの尾瀬を

みんなで守り

みんなで楽しむ

「尾瀬ビジョン」基本理念

はるかな尾瀬

財団法人 尾瀬保護財団機関誌
2007.11 平成19年11月1日発行
発行所: 財団法人 尾瀬保護財団

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1
TEL.027-220-4431 / FAX.027-220-4421
E-mail info@oze-fnd.or.jp ホームページアドレス <http://www.oze-fnd.or.jp>

R100
古紙製紙率100%再生紙を使用しています

本誌は、尾瀬の木道をリサイクルした再生紙と環境にやさしい植物油インキを使用しています。